

【ユニット】 地域医療とチーム医療

【ユニットディレクター】

UD：柴崎 智美（医学教育学）

UD 補佐：米岡 裕美（教養教育） 金田 光平（医学教育センター）

【一般的な目標】

医師は病気の治療や予防のために診療や保健指導などを行い、ひとの生命・生活・人生に深くかかわる職業である。また、医師は医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与もって国民の健康な生活を確保する（医師法第1条）という社会的責任がある。少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育む。

【具体的な目標】

1年生の地域ユニットでは「生老病死障害」、「コミュニケーション」及び「ケアし・ケアされる自分」など、ヒューマンケアについて学んだ。2年生では患者を含む地域で生活する人々のQOL（Quality of life）の向上のために3つのLife（生命、生活、人生）を支えるひと、地域、社会の仕組みや医師の法的な責務、医療経済、医療政策などの知識の習得と、それらを踏まえた地域で他の専門職を含む様々なひとと連携するために必要な技能と態度について学んだ。3年生では、これらを踏まえて、臨床医が理解しておくべきリハビリテーションや診療報酬、高齢者医療と死、医療の質、リハビリテーションに関する知識を学び、社会が求める医師の役割を理解する。

1. 埼玉県地域医療の現状と課題を説明できる。
2. 地域の健康課題に対する実践的な取り組みについて説明できる。
3. 医師が診療情報を取り扱う際に留意すべきことについて説明できる。
4. 我が国の診療報酬体系について説明できる。★
5. 医療の質とクリティカルパスについて説明できる。
6. 加齢と高齢者の特徴について説明できる。
7. 高齢者医療・ケアにおいて医師が持つべき視点について説明できる。★
8. 病歴・身体診察を重視した診断推理の方法について説明できる。
9. 地域包括ケアシステムを構成する保健医療福祉介護の資源について説明できる。★
10. リハビリテーションの概念と方法について説明できる。
11. 地域におけるチーム医療の基本である地域基盤型IPWに必要な視点を説明できる。
12. チームで行う活動を振り返り、チームの一員としての自らの課題を説明できる。★
13. 模擬患者から情報を収集し、チームメンバーで話し合うことができる。★

【学習方法】

このユニットでは、学内外の実践者を講師として迎え、臨床現場で地域医療を行う上で必要な知識や考え方についての講義が行われる。受講時には、主体的に参加し、その領域で大切にしている価値観や必須の知識、基本的考え方を理解することが必要である。

講義の事前学習や講義中または講義終了後の理解度を確認するためにWebClassを用いることがあるので、講義の日にはWebClassにアクセスできるようPCやipad、iphoneなどを持参しておくこと。

1. 講義をしっかりと聞いて、重要な点についてはメモやノートに記録する。
2. 重要な術語は、講義を聞いた後自ら調べる等してまとめておく。
3. CBTや国家試験でも必要とされる知識（重要な術語）については理解し覚える。

【評価方法】

本ユニットは良医になることを目指して、授業に参加し、課題に取り組むことを求めている。そのため、医師を目指す医学生としてふさわしくない態度、行動があった場合には、評価の対象とせず、不合格とする。

本ユニットは演習ユニットのため、75%以上の出席を求める。やむを得ない理由以外で出席不良の場合には、評価の対象とならないので、十分注意すること。

学年末の定期試験期間中に試験を行う。ユニットの評価は、定期試験の結果と講義内で行われるグループワークの参加態度やレポートの提出状況、提出内容を総合的に評価する。必要がある場合のみ再試験を1回行う。

マイルストーン評価は、該当する講義の出席要件の小課題あるいは定期試験で評価を行う。マイルストーン評価で不合格の場合には、補習を行い再評価を行う。

【教科書】

- ◆ 地域医療学入門 2019年8月9日発行 診断と治療社

【参考書】

- ◆ 保健・医療・福祉のための 専門職連携教育プログラム 2019年 ミネルヴァ書房出版
- ◆ IPWを学ぶー利用者中心の保健医療福祉連携ー 埼玉県立大学編 2009年4月15日発行 中央法規出版
- ◆ 朝倉内科学書(第11版) I
- ◆ 内科診断学第3版
- ◆ 美しい死(森亘 著) アドスリー
- ◆ 治療的自己(日本診療内科学会治療的自己評価基準作成委員会 訳) アドスリー
- ◆ 人生の最終章を考える(医療科学研究所 監修) 法研
- ◆ 現代リハビリテーション医学 第3版 金原出版

【授業予定表】

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
地域01	04月26日	(火)	1	保険診療のしくみ	柴崎(医学教育学)
地域02	05月12日	(木)	5	診療情報学	木下(総合診療内科)
地域03	06月21日	(火)	2	医療の質とクリティカルパス	小山(国セ消化器外科)
地域04	07月14日	(木)	4	高齢者を理解する1	廣岡(総合診療内科)
地域05	07月14日	(木)	5	高齢者を理解する2	廣岡(総合診療内科)
地域06	09月13日	(火)	3	地域リハビリテーション	齊藤(霞ヶ関南病院理事 長)
地域07	09月15日	(木)	3	良医とは何か	江利川(医療政策学)
地域08	11月07日	(月)	2	リハビリテーション概論	高橋(国セリハビリ科)
地域09	11月07日	(月)	3	リハビリテーションとチーム医療	高橋(国セリハビリ科)
地域10	11月28日	(月)	1	総合診療と在宅医療1	大和(共済病院)
地域11	11月28日	(月)	2	総合診療と在宅医療2	大和(共済病院)
地域12	11月29日	(火)	6	公衆衛生・地域保健の視点に立った 感染症対策(保健医療部長)	本多(県保健医療部)
地域13	11月30日	(水)	1	エンドオブライフケアと尊厳死	高橋(国セ緩和医療科)

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
地域14	12月02日	(金)	3	IPW演習1	柴崎 (医学教育学) 金田 (医学教育C)
地域15	12月02日	(金)	4	IPW演習2	米岡 (教養教育) 宮崎 (社会医学) 高橋 (地域医学推進C) 金田 (医学教育C) 加藤(寿)(医学教育C) 柴崎 (医学教育学) 本橋 (社会医学)
地域16	12月02日	(金)	5	IPW演習3	米岡 (教養教育) 本橋 (社会医学) 宮崎 (社会医学) 高橋 (地域医学推進C) 金田 (医学教育C) 加藤(寿)(医学教育C) 柴崎 (医学教育学)
地域17	12月02日	(金)	6	IPW演習4	米岡 (教養教育) 本橋 (社会医学) 宮崎 (社会医学) 高橋 (地域医学推進C) 金田 (医学教育C) 加藤(寿)(医学教育C) 柴崎 (医学教育学)
地域18	12月09日	(金)	4	埼玉県の地域医療	
地域19	01月10日	(火)	1	チーム医療	柴崎 (医学教育学) 植村 (社会医学) 金田 (医学教育C)

【備考】

本ユニットの一部は彩の国連携力育成プロジェクトによる彩の国連携科目「IPW 演習」該当科目である。具体的な目標の★印はマイルストーンに該当する目標である。本ユニット終了までにマイルストーンが達成できるようにマイルストーンを意識しながら講義を受講すること。

【ユニット】

地域医療とチーム医療

【ユニットディレクター】

柴崎 智美（医学教育学）

【コンピテンス】

1. 社会人および医師としての基本姿勢
2. 基盤となる医学知識と問題対応能力
4. 自ら学ぶ姿勢
7. チーム医療
9. 地域および国際社会の医療

【マイルストーン】

- 1-(5). 医療資源にはどのようなものが含まれるかを説明できる。
- 2-(5). 高齢者および高齢者医療の特徴について概説できる。
- 4-(3). チームで行う活動を振り返り、チームの状況や課題及びチームの一員としての自らの課題を説明できる。
- 7-(3). 目標を共有するために模擬患者から話を聞き、チームメンバーで話し合うことができる。
- 9-(1). 災害医療、高齢者医療を含む地域医療・地域保健の現状と課題、地域包括ケアについて概説できる。
- 9-(2). 地域包括ケアシステムを構成する保健医療福祉介護の資源を理解し、高齢者のケア、保険診療について概説できる。

【評価方法】

- 1-(5). 筆記試験
- 2-(5). 筆記試験
- 4-(3). 筆記試験（振り返り）
- 7-(3). IPW 演習での自己評価、教員による演習中の態度の観察評価
- 9-(1). 筆記試験
- 9-(2). 筆記試験

【補習および再評価の方法】

- 1-(5). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価
- 2-(5). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価
- 4-(3). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価
- 7-(3). レポート
- 9-(1). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価

9-(2). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価